

Web会議専用端末の導入で誰もがスムーズに
Web会議を設定・接続できるように

Web会議の利用にまつわる トラブル・問い合わせを 一掃して新たな働き方を 実現



USER PROFILE

コンフェックス株式会社

本社：東京都渋谷区代々木3-38-7
 創業：明治39年12月
 従業員数：1,470名

課題

経営陣や幹部社員を中心に、重要なWeb会議・商談が、リモート開催になった。会議室や設備の予約・接続に手間取ることが多く、会議開始にロスが発生し、支障を来すことが多かった。

ソリューション

Microsoft Teamsと連携し、簡単な操作で誰でも容易にWeb会議を利用できる「ThinkSmart Hub 500」および「ThinkSmart View」を導入。

導入効果

Web会議のトラブルによる時間のロスがなくなるとともに、時間や場所に縛られない新たな会議運営の在り方を確立。

菓子の大手総合商社として日本全国に卸売り拠点を展開するとともに、独自の商品開発や小売事業も手掛けるコンフェックス株式会社。創業から100年以上の歴史を誇る同社は、今後100年を見据えてさらに自社の企業価値を高めていくために、DXおよび働き方改革の取り組みを積極的に推進している。その一環として

同社は、LenovoのWeb会議専用端末「ThinkSmart Hub 500」および「ThinkSmart View」を導入。コロナ禍においてもWeb会議を通じて社内外のコミュニケーションを円滑に進めるとともに、時間や場所に縛られない新たな働き方を実現した。



Lenovo製品の堅牢性、デザイン、 価格は弊社が目指すDX実現の上で、 最適な製品だと判断しました。

コンフェックス株式会社
常務執行役員
DX本部長
穴田 浩一 氏

Lenovo

「次の100年」へ向けDXおよび働き方改革の取り組みを 一気に加速

東京・代々木に本社を構えるコンフェックス株式会社(以下、コンフェックス)は、菓子の大手総合商社として100年以上の歴史を誇る老舗企業。菓子商品の企画・生産・輸入を担うメーカー子会社3社と、小売販売を手掛けるグループ会社2社を擁し、日本全国に卸販売拠点を展開するほか、独自の商品開発や小売り事業も積極的に推進する。

同社は2021年4月、「次なる100年」を見据えた新たなコーポレートアイデンティティを打ち出し、コーポレートロゴやWebサイトを刷新するとともに、「人と、おかしと、笑顔と、未来。」という新スローガンを掲げ、経営体制のさらなる強化へ向け新たな一歩を踏み出した。その具体的な施策の1つとして、現在同社はデジタル技術の積極活用により事業や働き方の変革を実現する「デジタルトランスフォーメーション(DX)」に取り組んでいる。このDXの取り組みを率いるコンフェックス 常務執行役員 DX本部長 穴田浩一氏は、同社のDXが目指すところを次のように説明する。「これまで弊社の情報システムはレガシーなオフコンで構成されており、社員が使う端末もデスクトップPCが中心でした。社内の情報共有の仕組みは老朽化したNotesを用いて構築されており、社員の働き方も『フル出勤』『固定席』『9時～5時半』が基本でした。こうした旧態依然とした仕組みや働き方から脱皮しないことには、これからの時代を担う若い人たちにとって魅力的な会社にはなれないと考えていました」そこで社長が音頭を取り、2019年から大胆な社内改革をスタートさせた。勤務制度を改訂し、「リモートワーク」「フリーアドレス」を取り入れて新たな働き方を導入するとともに、情報システムにもクラウドサービスを大胆に導入し、レガシーなオフコンと最先端のクラウド技術を組み合わせた国内でも珍しいハイブリッドクラウドの運用形態を実現させた。また新たにMicrosoft 365を導入し、各種のコミュニケーション・コラボレーションツールを積極的に活用することで、社内外の情報共有の活性化を図ることにした。加えて、クライアントOSのWindows 10への移行を機に、デスクトップPCが中心だったクライアント端末の在り方を根本から見直し、リモートワークやテレワークに柔軟に対応できるノートPCへリプレースすることにした。早速複数のメーカーのノートPC製品を比較検討した結果、同社が最終的に採用したのがLenovoのThinkPadだった。ThinkPadを採用した理由について、穴田氏は「私は20年以上に渡ってさまざまな会社でPC選定に携わってきましたが、自身のこれまでの経験を踏まえてもやはりThinkPadは非常に優れた製品だと思います。堅牢性やデザイン、価格

などのバランスがとても優れており、かつ軽量でバッテリーの持ちがいいので携帯性にも優れています。そのため、弊社が目指すDXを実現する上で最適な製品だと判断しました」と述べる。

TeamsのWeb会議を円滑に運営するために「ThinkSmart Hub 500」を導入

同社が進めるDXや働き方改革のもう一つの目玉施策に、「会議体の変革」があった。これまで社内で行われてきた会議は、参加者が全員同じ場所に集まって対面で行うことを原則としてきた。これを、Web会議を積極活用する方針へと転換し、参加者が時間や場所に縛られることなく会議に参加できる環境を目指すことにした。具体的には「Microsoft Teams(以下、Teams)」を全面導入し、TeamsのWeb会議機能の積極活用を社内でも推進することにした。その結果、徐々にITリテラシーの高い社員を中心にTeamsの利用が広がっていき、スマートフォンなどを通じて気軽にWeb会議にアクセスして離れた場所にいる者同士でコミュニケーションをとり合うようになった。その一方、毎月全国の幹部社員を一堂に集めて行う「全体会議」や、同じく毎月取締役を集めて開催する取締役会などは、依然として対面で行われていた。しかしこうした会議も、ある時点を境に急速Web会議に置き換えざるを得なくなった。2020年春から本格化した新型コロナウイルスの感染拡大だ。「それまで全体会議は、東京・新宿の貸会議室に全国から200人以上の幹部社員を一同に集めて行っていました。コロナ禍以降はこうした会議の開催は難しくなりました。また全国各地にいる社外取締役を招いて開く取締役会も対面で行うことが難しくなり、急速Web会議での開催を検討する必要性に迫られました」(穴田氏)ただし、これらの会議は参加者の人数が多い上、ITリテラシーが決して高くない参加者が多かったため、TeamsのWeb会議の設定や実施に手間取ることも多かった。全体会議や取締役会では経営に関する重要な意思決定が行われるため、こうして開始が10分遅れるだけでも人時生産性にも大きなインパクトが及ぶ。そこで同社が急速導入を決めたのが、Teamsの会議をタッチパネルのシンプルな操作で設定・開催できるLenovoのWeb会議専用端末「ThinkSmart Hub 500」だった。同製品を会議室に設置しておけば、別途PCやスマートフォンなどをセットアップすることなく、タッチパネル画面に表示された会議名をタッチするだけで即座に会議に参加できる。これならITリテラシーに自信のない社員でも、スムーズにTeamsのWeb会議を利用できるようになる。「2020年7月にまずはThinkSmart Hub 500を1台試しに導入して本社の会議室に設置したのですが、その使い勝手の良さがあったという



ThinkSmart Hub 500で、 より多くの社員が商品知識を深め、 今まで以上に時間の有効活用もできるようになりました。

コンフェックス株式会社
DX本部
デジタルマーケティング部
伊藤 くるみ 氏

間に社内で評判となり『うちでもぜひ導入したい』という声が続々と上がりました。その結果、立て続けに3台を追加導入することになりました」(穴田氏)

Web会議活用の広がりにより柔軟かつ効率的な働き方が可能に

合計4台導入したThinkSmart Hub 500のうち、1台は社長室のミーティングテーブルに設置され、同社の社長が幹部社員とミーティングを行うために利用したり、あるいは若手社員とWeb会議を通じて交流を図るために頻繁に使われているという。その他の3台は本社および支店の会議室に設置され、社内でのちょっとした会議から、200人以上の幹部社員が集まる全体会議、さらには社外の顧客や取引先との打合せなど、実にさまざまな用途で活発に利用されている。特に、これまでPCやスマートフォンを使ったTeamsの利用に苦手意識を持っていたベテラン社員からは、極めて好評を博しているという。「ThinkSmart Hub 500のディスプレイに表示された会議名をタッチするだけで簡単に会議につながるため、ITに苦手意識のある社員からはとても評判がいいですね。それまでは、こうした方々がWeb会議を行う際、情報システム部門のヘルプデスクのメンバーがほぼ毎回サポートしていたのですが、ThinkSmart Hub 500の導入後はそうしたサポートは一切不要になりました」(穴田氏) また同社 DX本部 デジタルマーケティング部 伊藤くるみ氏によれば、一般社員の働き方も同製品の導入により大きく変わったという。「新商品の社内説明会を定期的で開催しているのですが、かつては本社の会議室にごく限られた役職の社員だけを集めて行っていました。しかし現在は、ThinkSmart Hub 500

を設置した本社の会議室で開発担当者が集まり、商品カメラに映しながら説明する様子をさまざまな役職の社員がWeb会議を通じて閲覧できるようになりました。また、外回りのちょっとしたすき間時間にスマートフォンを使ってそうした会議に参加できるようになったことで、多くの社員がより商品知識を深め、今まで以上に時間の有効活用もできるようになりました」さらに、全国の営業拠点を統括するとある幹部社員は、ThinkSmart Hub 500の利点をより自身の業務に活用すべく、同じくLenovoが提供する小型のWeb会議専用デバイス「ThinkSmart View」を導入し、日々の業務にフル活用している。同製品はディスプレイやカメラ、マイク、スピーカーなどの機能が一体となったコンパクトなWeb会議専用デバイスで、ThinkSmart Hub 500と同じくTeamsの会議機能に特化したシンプルな操作性を実現している。この幹部社員はThinkSmart Viewを自身のデスクに置き、自席にいなが好きな時にWeb会議を通じて全国の営業担当者やコミュニケーションを取れる環境を手に入れた。さらにコロナ禍以降は自宅にThinkSmart Viewを持ち帰り、在宅勤務環境でもまったく同等のコミュニケーション環境を実現できているという。ThinkSmart Hub 500およびThinkSmart Viewのこうした導入効果を踏まえ、同社では今後もLenovoの先進的な製品・サービスを積極的に活用しながら、DXおよび働き方改革のさらなる推進を目指すとしている。「Lenovoさんは常に私たちの発想の先を行く先進的な製品やソリューションを世に送り出し続けていますから、これからもぜひ私たちが想像だにしないような方法で弊社の経営課題を解決できるソリューションを提案いただければと思います」(穴田氏)

お電話やメールでのお問い合わせはこちら!

法人のお客様向け
見積依頼・ご購入
相談窓口

0120-68-6200

受付時間:月曜日から金曜日9時から17時30分
(祝日および年末年始休業日を除く)

PC製品  direct01_jp@lenovo.com

サーバー製品  Tech_ISR@lenovo.com

Lenovo、Lenovoロゴ、ThinkCentre、ThinkPad、ThinkStation、ThinkServer、New World New Thinking、ThinkVantage、ThinkVision、ThinkPlus、TrackPoint、Rescue and Recovery、UltraNav は、Lenovo Corporation の商標。Microsoft、Windows、Windows ロゴ、Windows Vista start button、Windows Aero、Windows BitLocker、Windows HotStart、Windows Live、Windows Media、Windows ReadyBoost、Windows ReadyDrive、Windows Server、Windows SideShow、Windows SuperFetch、Windows Vista、DirectX、Internet Explorer、Xbox 360、Excel、InfoPath、OneNote、Outlook、PowerPoint、Visio、Office ロゴ、IntelliMouse は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Intel、インテル、Intel ロゴ、Ultrabook、Celeron、Celeron Inside、Core Inside、Intel Atom、Intel Atom Inside、Intel Core、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel vPro、Itanium、Itanium Inside、Pentium、Pentium Inside、vPro Inside、Xeon、Xeon Phi、Xeon Inside、Intel Optane は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。他の会社名、製品名、サービス名等は、それぞれ各社の商標または登録商標。

Lenovo

レノボ・ジャパン合同会社

〒101-0021 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX

 <https://www.lenovo.com/jp/ja/pc>